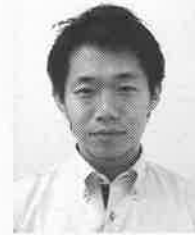


1都3県を中心に関東で調剤薬局を展開する薬樹(神奈川県大和市)は、既存店舗の「薬樹薬局 飯田橋」(東京都新宿区)の2階に在宅療養支援薬局「訪問薬樹薬局 飯田橋」を新規開局し、8月から運営を開始している。近隣の同社店舗とも連携し、在宅患者に対してこれまで以上のサポートを提供していく。昨年からは独居の高齢者を支えるための見守りサービスを始めるなど、薬局の機能拡充を進める薬樹の取り組みを取材した。

# 在宅療養支援薬局 新設

## 多様な医療ニーズに対応

薬樹



本部 統括 事業 在宅 推進 グループ 永瀬 航 グループマネージャー

### 人員・設備充実 東京の基幹店に

「訪問薬樹薬局」は同社が主に在宅患者の支援に力を入れる店舗に付けるブランド。同社は訪問薬樹薬局 飯田橋を東京の在宅分野における

の店舗に6人、2階の店舗に4人を置く手厚い人員配置。24時間365日体制を敷いて患者のサポートにあたる。

人員・設備ともに整ったことで「がんの末期患者や重度者に対する支援の一層の充実と緊急時のより迅速な対応を実現できる」(事業統括本部)。在宅事業推進グループ・永瀬航グループマネージャ

クリーンルームを設置し、無菌調剤に対応することで多様な医療ニーズに対応する。薬剤師は1階



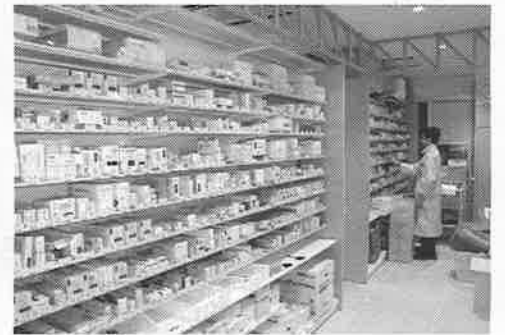
▲東京の基幹店舗と位置付け、クリーンルームも設置した

1階・2階の店舗ともに管理栄養士も配置した。管理栄養士は1階店舗では外来患者に、2階店舗では訪問によって在宅患者に対して健康管理のための栄養指導を行う。同社では薬局店舗への管理栄養士の配置も強化し

ており、9月1日現在、全148店舗の内、約2割にあたる店舗で管理栄養士による栄養指導が実施されている。先行して取り組んできた店舗では医師からの依頼で患者を指導するケースも増えている。

在宅医療の中心となる「訪問薬樹薬局」の店舗数は今後更に増やしていく計画。店舗への管理栄養士や看護師、居宅介護支援

## 血圧計活用 見守りサービスも開始



▲既存店舗の2階に開局された「訪問薬樹薬局 飯田橋」。主に在宅患者のサポートに力を入れていく

養士の配置も順次進めていく考えだ。



の事業者とは実験終了後も定期的に在宅医療の在り方や多職種連携について議論を重ねている。

在宅医療を推進する同社は、過去に調剤薬局として総務省管轄のICTを活用した医療・介護連携の実証実験への参加も果たした。ともに実証実験へ参加していた訪問介護の高齢者には自宅に通

このサービスでは薬剤師が毎日血圧を確認することで見守りに加え、服薬指導の質の向上にも繋げられる」とし、医療サポートが上乗せされた新たな見守りサービスとしての普及を目指していく。

8月23・24日の2日間、ぼ

うしや薬局(兵庫県姫路市)主催の在宅シンポジウム「地域医療に貢献できる薬局像を考える」各地での在宅医療に対する取り組みから「が姫路市で開催され、在宅医療に取り組み全国の薬局薬剤師を中心に約50人が参加した。

シンポジウムではエーザイ(東京都文京区)、ぼうしや薬



▲シンポジウムには約50人が参加した

## 地域医療へのかかわり方 検討

薬剤師中心に約50人参加



▲活発な議論が行われたパネルディスカッション

局がそれぞれ「認知症の方への対応を考える」、「地域医療に役割を果たせる薬局とは?」これから増加する認知症患者に地域でできることを考える」をテーマに講演。エムワン(三重県松阪市)、市民マシイ(広島県福山市)、アイエスプラン(兵庫県明石市)、ぼうしや薬局による在

居がそれぞれ「認知症の方への対応を考える」、「地域医療に役割を果たせる薬局とは?」これから増加する認知症患者に地域でできることを考える」を共有することができたと思う。より多くの人が参加するイベントになるよう東京や大阪で実施することも考えていきたい」と話し、次回の開催に意欲を見せた。

在宅医療への取り組みについての事例発表では各自自治体の高齢者数・高齢化率や医療・介護資源の現状が示され、今後の課題についても言及した。シンポジウムの最後にはパネルディスカッション「地域医療に貢献できる薬局像を考える」地域包括ケアシステムにおける薬局の役割とは?」も行われた。

医療